



平成23年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年2月9日

上場会社名 ロート製薬株式会社 上場取引所 東・大
 コード番号 4527 URL <http://www.rohto.co.jp>
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)吉野 俊昭
 問合せ先責任者 (役職名)取締役 経営情報本部長 (氏名)藤井 昇 TEL (06) 6758 - 1211
 四半期報告書提出予定日 平成23年2月10日 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年3月期第3四半期の連結業績(平成22年4月1日～平成22年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年3月期第3四半期	83,255	0.7	10,085	10.1	10,445	10.3	6,628	17.5
22年3月期第3四半期	82,702	0.8	9,156	1.4	9,467	6.6	5,642	19.7

	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益	
	円	銭	円	銭
23年3月期第3四半期	56	37	56	12
22年3月期第3四半期	47	98	47	77

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円		百万円		%	円	銭	
23年3月期第3四半期	122,239		76,835		62.3	647	95	
22年3月期	120,770		73,672		60.5	621	03	

(参考) 自己資本 23年3月期第3四半期 76,185百万円 22年3月期 73,023百万円

2. 配当の状況

	年間配当金						
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計		
	円	銭	円	銭	円	銭	
22年3月期		7	00	7	00	14	00
23年3月期		7	00				
23年3月期(予想)				7	00	14	00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 : 無

3. 平成23年3月期の連結業績予想(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通期	113,500	0.1	12,500	0.4	12,700	0.6	7,900	1.7	67	19

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 : 有

4. その他（詳細は、【添付資料】P. 4「その他の情報」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 : 無

(注)当四半期会計期間における連結範囲の変更に伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 : 有

(注)簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

会計基準等の改正に伴う変更 : 有

以外の変更 : 無

(注)「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数（普通株式）

期末発行済株式数（自己株式を含む）

23年3月期3Q	117,907,528株	22年3月期	117,907,528株
23年3月期3Q	327,816株	22年3月期	321,781株
23年3月期3Q	117,583,251株	22年3月期3Q	117,609,259株

期末自己株式数

期中平均株式数（四半期累計）

四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信【添付資料】P. 3「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

(参考) 平成23年3月期の個別業績予想（平成22年4月1日～平成23年3月31日）

(%表示は対前期増減率)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円 %	百万円 %	百万円 %	百万円 %	円 銭
通期	75,000 2.9	10,500 3.7	11,000 4.7	7,100 13.7	60 38

(注) 個別業績予想数値の当四半期における修正の有無 : 有

添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	2
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. その他の情報	4
(1) 重要な子会社の異動の概要	4
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	4
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 継続企業の前提に関する注記	9
(5) セグメント情報等	9
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	11

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間のわが国経済は、一部の業種で企業業績等に改善の兆しが見えつつあるものの、不安定な世界経済や円高もあり先行きの景況感是不透明なまま推移いたしました。また、個人消費についても雇用環境と所得水準が低迷する中、依然として厳しい状況が続いております。

このような状況のもと、当社グループは顧客志向の新製品開発やマーケティング活動により新規分野への展開を図るとともに、既存分野におきましても高付加価値の製品を開発し市場の活性化に努めてまいりました。

売上高につきましては、日本では、市場競争が激化する中「肌研(ハダラボ)」「オキシー」「50の恵」などのビューティ関連品が好調に推移していることに加え、11月以降の寒波到来によりリップクリームやハンドクリームなどの保湿関連品が堅調に推移いたしました。さらに、今春の花粉飛散量が例年より多いと予想されていることにより花粉関連品の出荷が先行したことも増収に寄与いたしました。一方、前年の新型インフルエンザ特需によりマスクなどの関連品が反動減となり、加えて漢方薬「和漢箋」ブランドの主力である「ロート防風通聖散錠」などメタボリック症候群関連品が伸び悩みました。

海外では、円高による為替換算の影響もあり、アメリカ及びヨーロッパは減収となりました。アメリカにつきましては、「オキシー」や目薬は増収を確保したものの主力のリップクリームなどが苦戦いたしました。ヨーロッパにつきましても東欧・アフリカ向けの輸出が堅調であったものの、為替換算の影響により減収となりました。一方アジアにおきましては、競争激化の中、男性用化粧品は伸び悩みましたが、主力のリップクリームをはじめ「肌研(ハダラボ)」や日焼け止め「サンプレイ」などが好調に推移いたしました。また、目薬につきましても中国での効果的な販促活動により売上は回復してきております。

その結果、売上高は832億5千5百万円(前年同期比0.7%増)となりました。

利益面につきましては、増収に加え原価率低減に努めたことにより、営業利益は100億8千5百万円(同10.1%増)、経常利益は104億4千5百万円(同10.3%増)、四半期純利益は66億2千8百万円(同17.5%増)となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期連結会計期間末における資産総額は1,222億3千9百万円となり、前連結会計年度末より14億6千8百万円増加しました。これは、現金及び預金が37億5千万円減少した一方、商品及び製品が23億6千1百万円、有形固定資産が23億1千万円、流動資産のその他が6億9千6百万円増加したこと等によるものであります。

負債総額は454億3百万円となり、前連結会計年度末より16億9千4百万円減少しました。これは、支払手形及び買掛金が14億8千万円増加した一方、長期借入金が16億8千5百万円、賞与引当金が9億1千4百万円、固定負債のその他が7億6千2百万円減少したこと等によるものであります。

また、純資産につきましては768億3千5百万円となり、前連結会計年度末より31億6千3百万円増加しました。これは、その他有価証券評価差額金が12億6千万円、為替換算調整勘定が5億8千5百万円減少した一方、利益剰余金が50億1千3百万円増加したこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	当期純利益 (百万円)
平成23年3月期	113,500	12,500	12,700	7,900
平成22年3月期	113,429	12,544	12,770	7,768
増減率(%)	0.1	0.4	0.6	1.7

当第3四半期連結累計期間の業績は、厳しい経営環境の中、増収増益を確保することができました。

日本においては、寒波到来によりリップクリームなどスキンケア関連品が順調に推移していることに加え、今春の花粉飛散量が増加するとの見通しもあり第4四半期も堅調に推移するものと考えております。また、海外では急激な円高による為替換算による影響はあるものの、概ね計画どおりに推移しております。

このような状況を勘案し、平成22年11月9日に公表いたしました平成23年3月期の業績予想を上方修正いたします。

なお、連結業績予想に用いた為替レートは〔86円＝1USドル〕と前回公表時より変更しておりません。

上記の予想につきましては、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

2. その他の情報

(1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

簡便な会計処理

- ・ たな卸資産の評価方法

当第3四半期連結会計期間末の棚卸高の算出に関しては、実地棚卸を省略し、第2四半期連結会計期間末の実地棚卸高を基礎として合理的な方法により算定する方法によっております。

- ・ 固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理

- ・ 税金費用の計算

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

会計基準等の改正に伴う変更

- ・ 「資産除去債務に関する会計基準」等の適用

第1四半期連結会計期間から「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準委員会 平成20年3月31日 企業会計基準第18号）及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準委員会 平成20年3月31日 企業会計基準適用指針第21号）を適用しております。

これにより、営業利益及び経常利益はそれぞれ9百万円減少し、税金等調整前四半期純利益は40百万円減少しております。

- ・ 表示方法の変更

（四半期連結損益計算書関係）

「連結財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準委員会 平成20年12月26日 企業会計基準第22号）に基づく財務諸表等規則等の一部を改正する内閣府令（平成21年3月24日 内閣府令第5号）の適用により、当第3四半期連結累計期間では、「少数株主損益調整前四半期純利益」の科目で表示しております。

以外の変更

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第3四半期 連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	9,622	13,373
受取手形及び売掛金	28,254	28,111
有価証券	5	-
商品及び製品	11,736	9,374
仕掛品	1,068	936
原材料及び貯蔵品	5,569	4,974
その他	4,531	3,834
貸倒引当金	144	122
流動資産合計	60,644	60,483
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	16,821	16,275
機械装置及び運搬具(純額)	6,276	5,887
その他	14,481	13,106
有形固定資産合計	37,580	35,269
無形固定資産		
のれん	1,197	1,353
その他	1,313	1,449
無形固定資産合計	2,510	2,802
投資その他の資産		
投資有価証券	17,477	18,448
その他	4,096	3,849
貸倒引当金	70	83
投資その他の資産合計	21,504	22,214
固定資産合計	61,594	60,286
資産合計	122,239	120,770
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	10,165	8,685
短期借入金	3,219	3,527
未払費用	12,769	12,571
未払法人税等	2,447	2,601
賞与引当金	818	1,732
役員賞与引当金	19	30
返品調整引当金	777	620
売上割戻引当金	2,137	1,788
その他	5,788	5,631
流動負債合計	38,142	37,187

(単位：百万円)

	当第3四半期 連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
固定負債		
長期借入金	2,935	4,621
退職給付引当金	1,497	1,703
役員退職慰労引当金	101	96
その他	2,726	3,488
固定負債合計	7,260	9,910
負債合計	45,403	47,097
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,398	6,398
資本剰余金	5,517	5,517
利益剰余金	65,836	60,822
自己株式	267	261
株主資本合計	77,485	72,478
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	3,438	4,698
為替換算調整勘定	4,738	4,153
評価・換算差額等合計	1,299	545
新株予約権	593	593
少数株主持分	56	55
純資産合計	76,835	73,672
負債純資産合計	122,239	120,770

(2) 四半期連結損益計算書
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
売上高	82,702	83,255
売上原価	34,803	34,327
売上総利益	47,898	48,928
返品調整引当金繰入額	123	157
差引売上総利益	47,775	48,771
販売費及び一般管理費	38,619	38,685
営業利益	9,156	10,085
営業外収益		
受取利息	49	47
受取配当金	286	401
為替差益	268	43
持分法による投資利益	5	135
その他	85	66
営業外収益合計	695	693
営業外費用		
支払利息	276	223
その他	107	110
営業外費用合計	384	333
経常利益	9,467	10,445
特別利益		
投資有価証券売却益	-	693
貸倒引当金戻入額	8	-
特別利益合計	8	693
特別損失		
固定資産売却損	-	129
投資有価証券売却損	-	56
投資有価証券評価損	296	-
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	-	30
特別損失合計	296	217
税金等調整前四半期純利益	9,179	10,921
法人税等	3,525	4,304
少数株主損益調整前四半期純利益	-	6,616
少数株主利益又は少数株主損失()	11	11
四半期純利益	5,642	6,628

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	9,179	10,921
減価償却費	3,404	3,091
のれん償却額	983	156
貸倒引当金の増減額(は減少)	4	24
賞与引当金の増減額(は減少)	876	912
役員賞与引当金の増減額(は減少)	7	10
退職給付引当金の増減額(は減少)	107	168
返品調整引当金の増減額(は減少)	123	157
売上割戻引当金の増減額(は減少)	220	349
固定資産売却損益(は益)	-	129
投資有価証券売却損益(は益)	-	636
投資有価証券評価損益(は益)	296	0
受取利息及び受取配当金	336	448
支払利息	276	223
持分法による投資損益(は益)	5	135
売上債権の増減額(は増加)	255	623
たな卸資産の増減額(は増加)	2,745	3,506
仕入債務の増減額(は減少)	1,514	1,395
その他	805	961
小計	11,068	10,968
利息及び配当金の受取額	319	410
利息の支払額	287	234
法人税等の支払額	3,120	4,568
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,979	6,576
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	3,163	5,606
無形固定資産の取得による支出	452	222
投資有価証券の取得による支出	312	1,592
投資有価証券の売却による収入	-	1,196
短期貸付けによる支出	-	250
その他	90	340
投資活動によるキャッシュ・フロー	4,018	6,816
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	286	1,017
長期借入れによる収入	315	191
長期借入金の返済による支出	888	839
配当金の支払額	1,646	1,646
その他	11	4
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,944	3,316
現金及び現金同等物に係る換算差額	212	194
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	1,803	3,750
現金及び現金同等物の期首残高	6,051	13,272
現金及び現金同等物の四半期末残高	7,855	9,522

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

【事業の種類別セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)

	アイケア 関連 (百万円)	スキンケア 関連 (百万円)	内服関連 (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	消去 又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1) 外部顧客に対する 売上高	18,314	48,452	11,844	4,091	82,702		82,702
(2) セグメント間の 内部売上高 又は振替高							
計	18,314	48,452	11,844	4,091	82,702		82,702
営業利益	4,781	5,259	1,049	266	11,356	(2,200)	9,156

(注) 1 事業区分の方法

事業区分は、製品の種類、用途(使用目的)、製造方法等の類似性に基づき区分しております。

2 各事業の主な製品

(1) アイケア関連 目薬、洗眼薬、コンタクトレンズ関連品

(2) スキンケア関連 メンソレータム、保湿鎮痒剤、リップクリーム、ハンドクリーム、
ニキビ用剤、日焼け止め、機能性化粧品

(3) 内服関連 胃腸薬、胃腸内服液、総合感冒薬、漢方薬、サプリメント

(4) その他 体外検査薬、花粉関連品、義歯関連品、衛生雑貨

【所在地別セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)

	日本 (百万円)	北米 (百万円)	ヨーロッパ (百万円)	アジア (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	消去 又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高								
(1) 外部顧客に対する 売上高	60,777	5,138	3,318	12,593	873	82,702		82,702
(2) セグメント間の 内部売上高 又は振替高	678	1,104	7	1,938	9	3,738	(3,738)	
計	61,455	6,243	3,326	14,532	883	86,440	(3,738)	82,702
営業利益 又は営業損失()	8,445	784	83	1,438	41	9,224	(68)	9,156

(注) 1 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。

2 本邦以外の区分に属する主な国又は地域

(1) 北米 米国・カナダ

(2) ヨーロッパ 英国

(3) アジア 中国・台湾・ベトナム

(4) その他 オーストラリア

【海外売上高】

前第3四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)

	北米	ヨーロッパ	アジア	その他	計
海外売上高(百万円)	5,174	3,123	11,373	876	20,548
連結売上高(百万円)					82,702
連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	6.3	3.8	13.7	1.0	24.8

(注) 1 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。

2 各区分に属する主な国又は地域

(1) 北米 米国・カナダ

(2) ヨーロッパ 英国

(3) アジア 中国・台湾・ベトナム

(4) その他 オーストラリア

3 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。

【セグメント情報】

(追加情報)

第1四半期連結会計期間から「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準委員会 平成21年3月27日 企業会計基準第17号)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準委員会 平成20年3月21日 企業会計基準適用指針第20号)を適用しております。

1 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務諸表が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、主にヘルス&ビューティケアの領域で生産・販売活動をしており、国内においては主に当社が担当し、海外においては、「アメリカ」を主にメンソレータム社が、「ヨーロッパ」を主にメンソレータム社・イギリスが、「アジア」をメンソレータム社・アジアパシフィック及びメンソレータム社・中国並びにその他の現地法人が、それぞれ担当しております。現地法人はそれぞれ独立した経営単位であり、取り扱う製品(サービス)について各地域の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

したがって、当社は、生産・販売体制を基礎とした地域別のセグメントから構成されており、「日本」「アメリカ」「ヨーロッパ」及び「アジア」の4つを報告セグメントとしております。各報告セグメントでは、アイケア関連(目薬等)、スキンケア関連(外皮用薬、リップクリーム、日焼け止め、機能性化粧品等)、内服・食品関連(胃腸薬、サプリメント等)及びその他(体外検査薬等)の製品(サービス)を生産・販売しております。

2 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第3四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他 (注) 2	合計	調整額 (注) 3	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注) 4
	日本	アメリカ	ヨーロッパ	アジア	計				
売上高									
(1) 外部顧客に 対する売上高	61,817	4,571	3,033	12,925	82,348	907	83,255		83,255
(2) セグメント間の 内部売上高 又は振替高	1,031	399		928	2,360		2,360	2,360	
計	62,849	4,971	3,033	13,854	84,708	907	85,616	2,360	83,255
セグメント利益 又は損失()	8,789	229	116	1,424	10,101	18	10,119	34	10,085

- (注) 1 「アメリカ」の区分は米国、カナダ等の現地法人の事業活動、「ヨーロッパ」の区分は英国、南アフリカの現地法人の事業活動、「アジア」の区分は中国、台湾、ベトナム等の現地法人の事業活動を含んでいます。
- 2 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、オーストラリアの現地法人の事業活動を含んでいます。
- 3 セグメント利益又は損失()の調整額 34百万円は、全額がセグメント間取引消去であります。
- 4 セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。